

3. 1 技術移転フォーラム 2025

技術移転フォーラム 2025 工業試験場成果発表会におけるポスター発表

開催日	令和7年6月3日（火）	場 所	ホテル札幌ガーデンパレス
主 催	北海道立総合研究機構工業試験場	作成者	社会基盤工学科 准教授 金 俊之

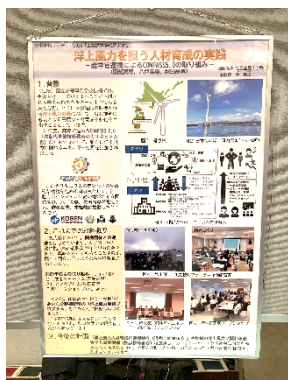
本発表会は、北海道立総合研究機構工業試験場が主催する研究等の成果発表会です。北海道地区4高専と北海道立総合研究機構との連携協定の一環で毎年本校も参加しています。今年度は、社会基盤工学科 准教授の金俊之がポスター発表を行いました。発表内容は、本校が拠点校として進めているCOMPASS5.0 再生可能エネルギー（風力）にかかわる産学官で連携した人材育成の実践に関するものです。函館高専では引き続き、産学官で連携を強化しながらGX人材の育成に取り組んでまいります。



写真① 発表会場



写真② 北海道地区4高専の発表ブース



写真③ 本校発表ポスター



写真④ 来場者へ説明する様子

3. 2 北洋銀行ものづくりサステナフェア

北洋銀行ものづくりサステナフェア			
開催日	令和7年7月23日（水）	場 所	アクセスサッポロ
主 催	北洋銀行	作成者	生産システム工学科 准教授 下町 健太郎
毎年開催される「北洋銀行ものづくりサステナフェア」において、本校での教育・研究活動に関するポスター発表を行った。このフェアには北海道内外から150の企業・団体が参加し、各種の活動についてブースを出典して発表した。冠している「サステナ」については、単にサステナブルな活動を紹介するということだけではなく、フェアそのものがサステナブルにする工夫がされていた。例えば、Jクレジットを利用して、フェア全体にかかる二酸化炭素排出量をネットゼロにしたり、ペーパーレス化したりということがあった。 本校からは「函館高専のエネルギー研究・教育事例～海と市電の街から～」という題でポスター発表を行った。これは、北海道内4高専が共同出展しているブースで行った。特に、水素というキーワードに興味を持たれる方が多く、熱心に聞いてくださる方が多い印象だった。また、報告者の専門に関することだけではなく、函館高専のアントレ教育、キャリア教育についても興味を持っていただけた。			
 			

3. 3 教員研究発表会

教員研究発表会			
開催日	令和7年7月24日(木)	場 所	ZACROS hall (L107)
主 催	研究推進室	作成者	一般系 教授 泊 功
新人教員のイニシエーション的に例年実施されている標記発表会だが、今年は教員の研究活動についても相当重視する清水校長の聴講するなか、会場は昨年度までの和気藹々とした雰囲気とは異なる緊張感が漂うこととなった。今年度の発表者は、昨年4月に赴任した袴田先生、小暮先生、森先生、高嶋先生と、一昨年の9月に赴任した内田先生の5名である。それぞれの所属と御発表のテーマは以下のとおりとなっている。 ①生産システム工学科（機械コース） 助教 袴田 翔 「回転2重螺旋を用いた把持機構による樹上移動ロボットの開発」 ②社会基盤工学科 助教 小暮 悠 「地方都市中心部における戦後建築ストックの“しまい方”」 ③一般系 講師 森 康平 「災害知識を避難行動に反映させる津波防災教育の構築 - 徳島県海陽町穴喰浦の児童を事例として -」 ④一般系 准教授 高嶋 一平 「化学分野を席捲するケミカルバイオロジーとは何者？」 ⑤一般系 講師 内田 光 「宇宙を創った素粒子は何者？」 各発表者の発表後は、清水校長が自戒を込めて発表者の「えーと」という口癖にまで言及するという厳しくも優しい質疑で先陣を切り、以降、ギャラリーとの活発な応酬が行われた。実際の厳しい学会発表の現場を垣間見たかのようなようであった。最後に、研究推進室長中津川先生による総括と御挨拶があり、発表会を終了した。			

3. 4 ビジネス EXPO

ビジネス EXPO 第 13 回 道内 4 高専・道総研産業技術環境研究本部・北海道科学大学との研究交流会			
開催日	令和 7 年 11 月 6 日 (木) 7 日 (金)	場所	アクセスサッポロ
主 催	北海道技術・ビジネス交流会実行委員会	作成者	一般系 准教授 須藤 絢
令和 7 年 11 月 6 日・7 日において、アクセスサッポロで行われたビジネス EXPO に参加した。高等専門学校技術や取組を社会に発信し、ものづくりに関する新たなネットワークを形成することを目的として例年道内 4 高専として出展しており、今年度の出展数は 307 社（昨年度 308 社）、来場者は 21,632 名（昨年度 21,261 名）であった。 道内 4 高専が出展したブースではポスター発表を行い、高専の知名度向上及び高専や研究内容に興味を持った来場者と情報交換を行った。特に各高専の地域との連携した教育や半導体教育の現状についての質問が多く見受けられた。 函館高専では「重曹による魚類鎮静と死後硬直遅延効果による鮮度保持」という題目で説明を行い、高専 OB や保護者等の来訪も多く、近年の高専の状況について説明する場面も多くあった。 また、「道内 4 高専・北海道科学大学・道総研（工業試験場、ものづくり支援センター）第 13 回研究交流会」を同時開催した。本交流会は、相互の研究活動の活性化、情報共有等を図り、もって学術研究の進展、北海道の産業技術力の強化及び新事業・新産業の創出の「きっかけ作り」の場を提供することを目的として実施するものであり、各機関研究者による情報交換を行った。 今回もイベント全体として多数の来場者があり、高専の技術や取り組みを社会に発信できたこと、また、道内企業・関係機関等と新たな情報交換を行う機会となり、当初の目的は達成できたと思われる。			
			
図 1. ビジネス EXPO にて発表する須藤准教授			

3. 5 HAKODATE アカデミックリンク

はこだて高等教育機関合同研究発表会「HAKODATE アカデミックリンク 2025」			
開催日	令和7年11月9日（日）	場 所	函館市青年センター
主 催	キャンパス・コンソーシアム函館(CCH)	作成者	生産システム工学科 教授 山田 一雅
キャンパス・コンソーシアム函館(CCH)は、はこだて高等教育機関合同研究発表会「HAKODATE アカデミックリンク 2025」を11月9日（日）に、函館市青年センターで開催しました。函館市内にある8つの大学、短大、高専の学生・教員、そして市内の高校生と他地域の大学生が、函館市青年センターに集結し、普段研究している内容や成果などを、学生や市民、地元企業に分かりやすく披露しました。 ポスター発表のブースセッションは、体育館で12:00～15:00 プレゼン発表のステージセッションは、会議室で12:35～14:00に開催されました。 当日は、加盟校8校のほか、弘前・青森・長万部の大学や市内の高等学校、企業・団体などが参加し、合わせて60ブースのポスター発表と、6チームのステージ発表が行われ、一般来場者、出展者及び関係者合わせて約500名を超える方々の来場がありました。函館高専からは、物質環境工学科の清野研究室と生産システム工学科の山田一雅電気電子研究室の2チームのみが参加しました。 一般公開の後に行われた表彰式では、優秀な発表が表彰されました。どの発表も年々発表技術が向上し、参加された皆さんにとっては、日頃の研究の成果を存分に発表できた、良い経験の場になったと思います。 アカデミックリンク 2025 の風景写真等詳細 URL はこちらで確認できます。 https://www.cc-hakodate.jp/cch_info/8028 抜粋： 【ブースセッション】大 賞 加盟機関名：函館工業高等専門学校 チ ー ム 名：NORivation 発表テーマ：No plastic, Just seaweed! チ ー ム 員：平野朱葉、西川景サミュエラ、栈翠蓮			